

125周年 記念事業報告

125周年記念事業「わいわいフェスティバル」が開催されました。「歌を通じて、世代を超え地域の方々をY.M.C.A.が、繋がれたらすてきだね」と言う委員同士の会話の中から生まれた企画です。

当日まで一体どれくらいの方が来て頂けるのか不安な中で開催されましたが、午後1時の開演と同時に「わいわいフェスティバル」のチラシを持った方々が続々と集まって来られ、「アンサンブルIZUMI」の演奏と共にスタート。歌の歴史と共にY.M.C.A.の125周年の歴史が紹介されました。

また、会場では、Y.M.C.A.のリーダーが手作り楽器のコーナーを催し、参加の子どもたちと太鼓やマラカスを作り楽しいひと時を過ごしました。

今回の開催にあたり多くの方々のご協力があり、また何よりもたくさんの方々が演奏を聞きに来てくださったおかげで、心温まる時間を共有できたのではないかと思います。演奏会終了後、「楽しかったよ！ありがとうございます」という声を頂き、



また、会場では、Y.M.C.A.のリーダーが手作り楽器のコーナーを催し、参加の子どもたちと太鼓やマラカスを作り楽しいひと時を過ごしました。

また「わいわいフェスティバル」が終わって数日後、「参加できなかった祖母に当日の歌集を見せると、とても懐かしいと喜んでいました。」という声や、サンホームの入居者のみなさんからも「帰ってからも歌っているよ」という声が聞けたことを本当に嬉しく思います。

Y.M.C.A.の活動には本当にたくさんの方が関わっていることを改めて感じました。この125周年記念事業を通じて、これからも地域の方々や様々な世代の方と共に歩んでゆけるY.M.C.A.でありたいと願います。

東Y.M.C.A.スタッフ 八木知加



大阪Y.M.C.A.創立125周年記念事業の一つである記念講演会が、10月27日(土)に大阪Y.M.C.A.会館で行われました。名古屋大学大学院教育学部研究科の速水敏彦教授をお迎えして「今、子ども・若者のこころがわからない」と題した講演会に約90余名の参加者が集まり、速水教授のお話をじっくりとお聞きしました。言うまでもなく、大阪Y.M.C.A.では125年の間、青少年育成の為に事業をいくつも展開しており、今日も子ども・若者と触れ合う機会が多い中、創立125周年記念事業委員会では、現代的課題をテーマとして、今回の講演会を準備してきました。

速水教授は「自身の研究を通して、仮想的有能感という概念(『若者を中心とした現代人の多くに生じる、周囲の見知らぬ他人をいとも簡単に否定・軽視すること、無意識的に自分の有能さを保持したり、高めようとする感覚を提唱しておられます。そしてこの仮想的有能感がどのように形成され、どのような問題行動に繋がっているかを実証する研究を続けておられます。講演の中では豊富なデータを基に身近な事例を交えながら、現代の若者の注目すべき点として、怒りを感じることは多く、喜びや悲しみを感ずることが少ない、罪悪感を持つことが少ない、平気で嘘をつく、或いは特に日本の若者は自尊心が低いことなど興味深い内容を示して下さいました。また、実行委員の私のほうが皆さんにありがとうという気持ちでいっぱいになりました。」

また「わいわいフェスティバル」が終わって数日後、「参加できなかった祖母に当日の歌集を見せると、とても懐かしいと喜んでいました。」という声や、サンホームの入居者のみなさんからも「帰ってからも歌っているよ」という声が聞けたことを本当に嬉しく思います。

Y.M.C.A.の活動には本当にたくさんの方が関わっていることを改めて感じました。この125周年記念事業を通じて、これからも地域の方々や様々な世代の方と共に歩んでゆけるY.M.C.A.でありたいと願います。

東Y.M.C.A.スタッフ 八木知加

「わいわいフェスティバル」の方々の協力があり、また何よりもたくさんの方々が演奏を聞きに来てくださったおかげで、心温まる時間を共有できたのではないかと思います。演奏会終了後、「楽しかったよ！ありがとうございます」という声を頂き、

また「わいわいフェスティバル」が終わって数日後、「参加できなかった祖母に当日の歌集を見せると、とても懐かしいと喜んでいました。」という声や、サンホームの入居者のみなさんからも「帰ってからも歌っているよ」という声が聞けたことを本当に嬉しく思います。

Y.M.C.A.の活動には本当にたくさんの方が関わっていることを改めて感じました。この125周年記念事業を通じて、これからも地域の方々や様々な世代の方と共に歩んでゆけるY.M.C.A.でありたいと願います。

東Y.M.C.A.スタッフ 八木知加

また、会場では、Y.M.C.A.のリーダーが手作り楽器のコーナーを催し、参加の子どもたちと太鼓やマラカスを作り楽しいひと時を過ごしました。

今回の開催にあたり多くの方々のご協力があり、また何よりもたくさんの方々が演奏を聞きに来てくださったおかげで、心温まる時間を共有できたのではないかと思います。演奏会終了後、「楽しかったよ！ありがとうございます」という声を頂き、

また「わいわいフェスティバル」が終わって数日後、「参加できなかった祖母に当日の歌集を見せると、とても懐かしいと喜んでいました。」という声や、サンホームの入居者のみなさんからも「帰ってからも歌っているよ」という声が聞けたことを本当に嬉しく思います。

Y.M.C.A.の活動には本当にたくさんの方が関わっていることを改めて感じました。この125周年記念事業を通じて、これからも地域の方々や様々な世代の方と共に歩んでゆけるY.M.C.A.でありたいと願います。

東Y.M.C.A.スタッフ 八木知加



また、もう一つのプログラムイベントとして実施した館内クワトロスロンは、室内で①スライム②バイク③トレッドミルの各種目を10分ずつ行い、④スポーツエアガン(5発を2回射撃)の4種類の合計得点で競います。トライアスロンのように、各個人ごとに連続して競技をするのではなく、各種目ごとに参加者が一緒に同一種目を競技するため、19歳の現役学生から71歳の方まで、和気藹々とした雰囲気で行われました。

大阪府近代五種バイアスロン競技協会のご協力をいただき、感謝申し上げます。是非また来年も実施して欲しいと言う参加の方々の声も多く頂戴いたしました。今後も、このようなイベントを通し、地域に密着した事業により、健康で充実した生活を営む機会になればと願っております。

みなとY.M.C.A.スタッフ 武田 龍一

みなとY.M.C.A.オープンハウス

10月20日(土)みなとY.M.C.A.ウエルネスセンターでは、最近よく聞かれるメタボリック症候群の根本原因となる動脈硬化度の測定、日本初となる館内クワトロスロン、近隣地域の方々への施設無料開放(オープンハウス)の3つのイベントを実施いたしました。

動脈が硬化することにより、心疾患や脳血管疾患等様々な弊害を引き起こしますが動脈硬化の進行度合いは、日常生活習慣に起因する部分が多く、血管の詰まり度合い(AB I)と血管の硬さ(PWV)の測定を行うことにより、生活習慣のチェックができます。

また、もう一つのプログラムイベントとして実施した館内クワトロスロンは、室内で①スライム②バイク③トレッドミルの各種目を10分ずつ行い、④スポーツエアガン(5発を2回射撃)の4種類の合計得点で競います。トライアスロンのように、各個人ごとに連続して競技をするのではなく、各種目ごとに参加者が一緒に同一種目を競技するため、19歳の現役学生から71歳の方まで、和気藹々とした雰囲気で行われました。

大阪府近代五種バイアスロン競技協会のご協力をいただき、感謝申し上げます。是非また来年も実施して欲しいと言う参加の方々の声も多く頂戴いたしました。今後も、このようなイベントを通し、地域に密着した事業により、健康で充実した生活を営む機会になればと願っております。

みなとY.M.C.A.スタッフ 武田 龍一

創立125周年記念インタビュー

先達に聞く! ③ 福永嘉彦さん



内田：どうしてY.M.C.A.と関わるようになったかお話しいただけますか。

福永：1946年に同志社大学予科(旧制)に入りまして間もなく、学校の中で宗教活動とか、学生Y.M.C.A.に関わったり、また、京都Y.M.C.A.の活動にも参加しました。学内の宗教活動はいわゆる伝道というほどではありませんが、神学部の方々と一緒に色々やっていました。また、学生時代の後半に東山荘で研修会があった時にウォーリスさんが来ておられ、色々教えられて、学校の中で活動をしたりやらなければいけないと思いました。ここで他の学校のY.M.C.A.や他の地域のY.M.C.A.の人達と一緒に研修を受けたのが初めての経験で、お互いの話し合いなどを通じて大きな収穫になりました。その後、就職してからはあまりY.M.C.A.に関わらなかつたのですが、1984年にハワイから帰ってきた途端、友人に誘われて大阪センターアルワイズメンズクラブに入って、Y.M.C.A.の活動に再び関わって今日に至っている次第です。

内田：その当時の京都Y.M.C.A.の活動と、大阪Y.M.C.A.に関わるようになってからの活動と、比較していかがですか？

福永：時代が違いますので、一概には言えませんが、あの当時京都Y.M.C.A.に、同盟からスタッフの方が来られて、学生Y.M.C.A.対象に伝道集会を開催していました。伝道集会を

開催することは、学生Y.M.C.A.(京大、同志社など)と地域Y.M.C.A.とが結びつかなければならぬと考えたことでした。伝道する若い人たちに對して、まず「キリスト教とはこういうものだ」ということを理解して、認識してもらおうという点においてはプラスになったと思います。Y.M.C.A.の活動は若い人たちに「キリスト教」に対する関心を持ってもらうという点で有益だと思います。

内田：大阪Y.M.C.A.に期待することをお聞かせください。

福永：「お互いが愛でもって結び合わされる」という趣旨のことを考えながら、Y.M.C.A.はそのような交わりを広げていくということが非常に重要ではないかと思えます。それと同時にいわゆる社会倫理的な面も追求していく必要があると思います。「クリスチャンはこうあるべきだ」というのではなく、その人の基本的な考え方が、聖書に基づいたものであって欲しいですね。Y.M.C.A.に関することは、人間を鍛えていくことになる、そういうことを我々は望みたいですね。